

ことば便り



～言語能力をはぐくむ～

松原北小学校 学習指導部

【はじめに】

本日より2学期がスタートしました。2学期も子どもたちと共に、言語能力をはぐくんでいけるように様々な取り組みを進めていきましょう。

「ことば便り」では、先生方の日々の実践を取り上げ、皆様で共有することを目的に発信していければと思っております。

【ブックフェア】

今年度の新書を選定するために、先生方でブックフェアを開催しました。学年の実態に応じて、興味をもつことができるような本を選んでくださっていました。子どもたちからのアンケートも踏まえて選書しています。夏休みに新書が届いたので、子どもたちと共にたくさん本の本に触れていきましょう。

なお、各学年で選んだ本はその学年の教室に、アンケートから選んだ本は図書室の前の方に置きます。新書の貸し出しは、運動会後から行います。



【4年生の取り組み】

4年生の「本のポップや帯を作ろう」では、1年生に本を紹介するという相手意識・目的意識をもちポップ作りに取り組みました。1年生に本を見てもらうために、「興味が湧いてくるキャッチコピー」や「わかりやすい紹介文」を意識し作りました。

相手意識・目的意識がもてるような「単元のしかけ」を設定することで、子どもたちは主体的に学びに向かうことができます。ぜひ、子どもたちが学びたいと思えるような単元計画をしていきましょう。



【5年生の取り組み】

小学校
5年

資料から必要な情報を整理し、まとめよう

松原市立松原北小学校

教科	社会	単元名	食生活を支える食料の産地
本単元で習得するスキルと学校図書館活用スキル			
A-STEP3, C-STEP3 G-STEP3, D-STEP3			
該当箇所の詳細内容は 「大阪府情報活用能力 ステップシート」から確認できます。			

単元でつきたい力

(教科等でつきたい力)

●食料の産地について、資料や本を活用し調べまとめることで、食料生産と日本の地形が関係していることに気づくとともに、自分たちの食べている食料に興味や様々な疑問をもつことができる。

●学校図書館等の活用でつきたい力

●得た情報をまとめることで、その傾向に気づくことができる。

●必要に応じて資料を選別し、活用することができる。

単元における学習の展開 (全3時間) (学校図書館等を活用した時間に☆印)

第1次 (1時間)	●食料の産地にどのような特徴があるのかという学習課題を確認する。 ●白地図にチラシや本などで調べた産地を書き出し、特徴に気づくことができる。☆ ●まとめたものを全体交流することで、自分の言葉で振り返ることができる。(本時)
第2次 (1時間)	●チラシ等だけでは不足していた情報を本で調べ、産地の広がりを確認する。☆ ●グラフやキーワードから、日本の食料生産への興味をもち、様々な考えをもつ。 ●食料生産についての考えを共有することで、今後調べていきたいことの共通性をもつことができる。
第3次 (1時間)	●食料生産について、新聞にまとめる。☆ ●(大単元を通して、1つの新聞が出来上がるように設定する。) ●新聞を読み合い、感想を伝えあう。

本時のねらい

白地図に産地をまとめる活動を通して、自分たちの食べている食料の産地を知り、その特徴に気づくことができる。

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	★学校図書等の活用により期待される効果 (言語能力育成のためのポイント)
導入 (5分)	1. 食料に目を向ける。 →給食の写真を見て、どんな食材が使われているかを確認する。 →自分たちの食べている食料がどこから運ばれてきているのかを予想する。 めあて：食料の産地を調べ、その特徴に気づく。	●指導上の留意点等 ●指導者が間違った産地を言うことで、産地に着目させる。 【しけ：仮定する】
展開 (30分)	2. 食料の産地を調べる。 →スーパーのチラシの産地を白地図に書き込む。 ●食料の種類で把握する等、班で協力して取り組む。 →白地図からわかることや気づいたことを話し合う。 ●一人学び→班で交流→面用紙にまとめる ●種類によって作られているところがある程度決まっていることや、どの地域でも作られているもの、外国産が多いものなどに気づく。	★自分自身で調べたことを明確にし、資料を探すことで、目的をもつ主体的に取り組ませる。 ●種類ごとに色を分けさせ、産地の特徴に気づかせる。 ●一人学びの時間を設定し、考えを整理させる。 ●話し合うポイントを提示し、一人ひとりの考えから学びが深まるようにさせる。 ●共通点、相違点に着目して、交流内容を明確にさせる。 ●振り返る内容を提示し、振り返を確認させる。 ●交流した内容を提示し、振り返を書かせる。
まとめ (10分)	3. 振り返る。 →全体交流から学んだことを自分の言葉でまとめる。	

授業者の声～参考にしたいポイント～

- 産地調べを行う際、「野菜担当」等の役割分担を行うことで、意欲的に取り組むことができる。
- 食料のおおまかな種類ごとに色分けを行うことで、特徴に着目しやすくすることができた。
- 一人学びの時間を十分に設定することで、後の話し合い活動で自分の意見をもち、発言することができた。
- 肉類の産地が「国内産」のものが多いため、本を活用することで、肉類の主な産地を調べることができた。
- 新聞づくりをする際、前時までにまとめたことを提示することで、振り返りながらまとめることができた。
- 「共通点と相違点」について、相違点がなかなか見つからない様子であった。「共通点」のみとし、他に話題にあがったことを書くよう指示する方が、全体交流につながるを感じた。
- 振り返りの時間を十分にすることができなかった。調べ学習の段階で、話し合いの視点やポイントを伝えておく、児童の思考がスムーズにいくと感じた。



一人学びで気づいたことを書き出し、交流した後、共通点について班で共有し、まとめているところ



5年生の「食生活を支える食料の産地」では、「米作りのさかんな地域」や「水産業のさかんな地域」、「これからの食料生産」に興味をもつことができるように意識した単元計画を設定しました。

第1次で言語能力をはぐくむために工夫した点を紹介します。

子どもたちが言語活動を行う際の視点を意識させました。「お互いの共通点や相違点について話し合みましょう。」と指示することで、内容を明確にして話し合うことができました。また、グループで話し合う前に一人学びの時間を十分に設定をしました。一人学びで考えをもつことで、話し合う際の手立てとなり、グループ全体で活発に話し合いをすることができていました。